

行動報告

2 FEBRUARY						
月	火	水	木	金	土	日
28	29	30	31	1 代々木/ト	2 炊き出し 渋谷/ト	3 梁山泊会議
4 福祉・面会	5	6	7 アルミ缶会議 なぎさ寮入所受付	8 代々木/ト 大田寮入所受付	9 炊き出し 渋谷/ト 医療相談	10 豊島寮・新宿寮・大田寮面会 梁山泊会議
11 東村山・鈴木邦彦さん 追悼会 街頭カンパ	12 福祉・面会 大田寮入所受付	13	14 アルミ缶会議	15 代々木/ト	16 炊き出し 渋谷/ト	17
18 福祉・面会 宮下公園に 「仲間の家」建設	19	20	21 アルミ缶会議	22 代々木/ト 高齢者特別就労問題で 山谷労働センター交渉 代々木公園特別就 労事業受付	23 炊き出し 渋谷/ト	24 豊島寮・新宿寮・大田寮面会 梁山泊会議
25 福祉・面会 街頭カンパ 臨時会議	26 アルミ缶規制問題で 第1回台東区交渉	27	28 アルミ缶会議	1	2	3

2月3日
梁山泊会議開催。以後、毎月第二第四日曜日の午後6時からで定例化。昨年暮以降、停滞気味だった「宮下梁山泊」だが、「まずは集う場を作り直すことから」ということで、生活の中でのさまざまなことを話し合う場を設定。この頃より、土曜日炊き出し後/ト前の児童会館寄合も定例化。

2月11日
東村山で1月2日に中学生らに虐殺された鈴木邦彦さんの追悼会に参加。200名近い参加者が虐殺現場に集まり、鈴木さんを追悼した。＜参考：朝日新聞 1月2日朝刊＞

2月12日
大田寮入所受付第三回。5人の枠に対して、33人の仲間が応募。大田寮での「毎週1回、入所中4回のアセスメント実施」「一ヶ月滞在後の割り振り」という前提が崩壊したため、2ヶ月近く滞在する入所者が増加。渋谷枠が16人あるにもかかわらず、5人しか新規入所できない結果となる。

2月18日
宮下公園に8畳程度のシェルター兼集会所「仲間の家」を建設。しかし当日から渋谷区土木部公園課から執拗な撤去要請。撤去要請が具体的な「行政代執行」手続きに入った後の3月4日自主撤去するも、集会所スペースは宮下公園内に確保。

2月22日
東京都の「高齢者特別就労事業」問題で、山谷労働センターと交渉。山谷の仲間と合同で、3月4日から2日まで新規登録を受け付けることを

約束させる。内容は、松戸にある矢柱霊園の清掃の仕事。日当9,190円（65歳以上は9,210円）。

代々木公園で国の「緊急雇用特別交付金」を活用した特別就労事業が開始される。3月1日までで、募集人数は20人。89人の仲間が応募。2日間一人当たり日当9,800円。内容は、撤去地域の木材剪定作業。「特別交付金」の活用や山谷労働センターの山谷以外への出張受付は画期的なことだが、撤去問題と絡めた「アメとムチ」の対応には複雑な思いが残る。

2月26日
台東区が「分別回収しているアルミ缶が野宿者に抜き取られる」として新年度から/トロールの実施などの対策に乗り出す、というアルミ缶規制の動きを始めたことに対し、山谷・上上野・隅田川の仲間とともに台東区交渉。仲間の最後の生命線を取り上げて、何のリサイクルか!と怒りの声をぶつける。台東区は計画の再検討を約束。以後、3月1日、1日と重ねて交渉を持ち、1)アルミ缶回収による台東区の収益は年間100万円であるのに対し、2)/トロールに年間600万円もの予算を付けていること、3)アルミ缶回収の委託料として業者に6000万円もの巨額資金を投入しながら、4)回収量が月あたりわずか3トンにすぎないこと、受託業者の横流しを黙認しているという事実でなくては?)などが明らかとなる。最終的には、仲間がアルミ缶を取る分には黙認するとの言葉を勝ち取る。

3 MARCH						
月	火	水	木	金	土	日
25	26	27	28	1 代々木/ト	2 炊き出し 渋谷/ト	3
4	5 高齢者特別 就労新規登録行動 第1弾	6	7 アルミ缶会議	8 代々木/ト	9 炊き出し 渋谷/ト 医療相談	10 豊島寮・新宿寮・大田寮面会 梁山泊会議
11 福祉・面会 街頭カンパ 大田寮入所受付	12 新規登録行動第2弾 アルミ缶規制問題で 第2回台東区交渉	13	14 アルミ缶会議 なぎさ寮終了	15 代々木/ト	16 炊き出し 渋谷/ト	17
18 福祉・面会	19 新規登録行動第3弾 アルミ缶規制問題で 第3回台東区交渉	20	21 アルミ缶会議 全国懇	22 代々木/ト	23 炊き出し 渋谷/ト	24 豊島寮・新宿寮・大田寮面会 梁山泊会議 日韓シンポジウム参加
25 福祉・面会 渋谷区交渉 街頭カンパ	26	27	28 アルミ缶団結 花見大会	29 代々木/ト	30 炊き出し 渋谷/ト	31

3月5日
「山谷労働センター」を受付窓口とした東京都の「高齢者特別就労事業」、2002年度新規登録開始。渋谷では、期間中4日、1日、1日の毎週火曜日を集団登録行動日と設定。計30名近い仲間が新規登録を行う。実際に仕事が始まるのは4月1日から。1人当たり、月1回から2回仕事が回ってくる予定。

3月24日
文京区民センターで韓国の金秀顯(キム・スヒョン)周永洙(チュ・ヨンス)両氏を迎えての「仕事作りと路上医療」をテーマにしたシンポジウム(主催:野宿者人権資料センター、国境なき医師団日本、ホームレス東アジア交流)。韓国の主にソウル市を中心とした政策の現状と医療対応の現実を聞く。

3月25日
渋谷区保護課、公園課と団体交渉。内容は、1)2001年度中開設が東京都および23区の公約である「自立支援センター・渋谷寮」が依然として開設していないことに対し、開設の目処を明らかにさせること。2)「緊急一時保護センター・大田寮」の入所受付が月1回しかなく、仲間の入所機会が限られていることから、受付回数を増やすこと。3)「高齢者特別就労事業」の登録をしに「山谷労働センター」まで出向く仲間に交通費を貸し付けること。4)国の「緊急雇用特別交付金」を活用した代々木公園での「特別就労事業」実施を受けて、渋谷区でも同様の事業を実施すべきこと。保護課からは1)渋谷寮開設の遅れについて、課長より正式に謝罪があり、今年8月開設を目処に最大限努力することが約束された。2)

大田寮受付に関しても、検討を約束。3)山谷までの往復交通費貸付についても了承。

3月28日
恒例の団結花見大会。恐ろしく早咲きの桜に押されるようにして急遽日にち設定。当日の材料費等は街頭カンパの余剰金をカンパに参加している仲間の合意で賄わせてもらう。130人が参加。沖縄の三線やカラオケ等で盛り上がる。